

# E-13 家政学雑誌における研究課題の変遷と特徴

大妻女大家政 ○大森正司

日本科学技術振興財団(現在:東京農大農総研) 吉村典夫

目的 家政学における研究は、その内容、方向、体制等、いろいろと異論のあるところと考えられる。最近、日本科学技術振興財団において、過去数年にわたって、日本の科学技術研究課題の分類、ファイル作業が進行している。今回は家政学雑誌における研究課題を同システムで分類することにより、その変遷と特徴を比較考察、あわせて今後の資料とすることを目的とした。

方法 ①家政学雑誌における研究課題を分野別(被服、食物、児童、住居、その他)に分けて、その課題数を経時的に調査した。②家政学雑誌における研究課題を、単独研究、同一機関における共同研究、他機関との共同研究に分け、共同研究のあり方について調査した。また、同時に地域別による課題数の変化について調査、考察した。③日本科学技術分類表(CST)を用い、訓練されたインデクサーにより、インデクシング(分類、あてはめ)を行い、考察した。

結果 ①被服、食物に関する報文が全体的に多く認められた。研究のあり方については単独研究がもっとも多く、半分弱認められた。②地域別では東京、愛知、京都、大阪など、大都市で多く認められたが、地方においても特色のある研究が見い出された。③CSTによる分類の結果、8:総合問題として分類された項目が多数を示し、3:エネルギーの技術、9項目が比較的少く、特徴的であるのが認められた。